



アンケート調査支援システムの開発

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大前, 義弘, 北岡, 宏章, 高橋, 参吉, 中馬, 義孝, 畠山, 信敏, 宮本, 皓生 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00007928

アンケート調査支援システムの開発

大前 義弘* 北岡 宏章** 高橋 参吉***
中馬 義孝* 畠山 信敏** 宮本 皓生****

Development of a Questionnaire System Assisted by Personal Computer

Yoshihiro OHMAE*, Hiroaki KITAOKA**, Sankichi TAKAHASHI***,
Yoshitaka CHUMAN*, Nobutoshi HATAKEYAMA** Teruo MIYAMOTO****

ABSTRACT

We developed a questionnaire system to use personal computers for collecting and processing answers. They are recorded simultaneously on the floppy disk, which will be used directly as the data base for processing. In this system questions are shown on the CRT display. The answerer can reply only by using TEN-keys and RETURN-key.

This system would be convenient when a number of answerers can get together at one place for replying.

Key Words: Questionnaire System, Personal Computer, CAI

1. まえがき

筆者らは、これまでに校内の教育研究グループで高専の入試制度¹⁾や大学への編入学²⁾に関するアンケート調査を実施したことがある。その際、集計用紙に記入された回答をマークカードやTSS端末で入力し、集計には情報処理センターの大型計算機を利用してきた。マークカードによる入力では、転記ミスや誤読があり、端末から直接入力する方法では、計算機に慣れた者しか入力できないなどの欠点があった。

現在、情報処理センターには1クラス分のパソコン(FM 16 β)が導入されているので、昭和62年2月に学生対象に実施したアルバイト調査^{3), 4)}では、アンケートの回答および集計に対話型で処理できるプログラムを作成し、パソコンの利用を試みた⁵⁾。

このアンケート調査支援システムを利用すれば、質問項目がCRTに表示されるので、誰でも簡単に回答でき、

さらに集計・検索ができる。また、回答者が学生の場合は、調査用紙なしでもパソコンと対話しながら一斉に実施でき、回答結果はフロッピーディスクに記録されるので、集計用データを入力する手間が省けるなどの長所がある。

本稿では、アルバイトのアンケート調査例をもとに、アンケート調査支援システムについて述べ、さらに、本システムの特徴などについて述べる。

2. アンケート調査支援システム

アンケート調査支援システムは、図1に示されるように、アンケート回答プログラムとアンケート集計プログラムからなる。

2.1 アンケート回答プログラム

アンケート回答プログラムでは、質問項目が一つずつCRTに表示され、回答者(あるいは集計者)が、パソコンと対話しながら入力できるように配慮している。また、入力後の訂正の場合も、訂正したい質問項目を指定すれば、再度、その質問を表示し訂正できるようにしている。訂正がなければ、個人の回答がデータファイルとして、フロッピーディスク内に作成される。すなわち、

昭和63年4月11日受理

* 機械工学科(Department of Mechanical Engineering)

** 一般教養科(Department of General Education)

*** 電気工学科(Department of Electrical Engineering)

**** 工業化学科(Department of Industrial Chemistry)

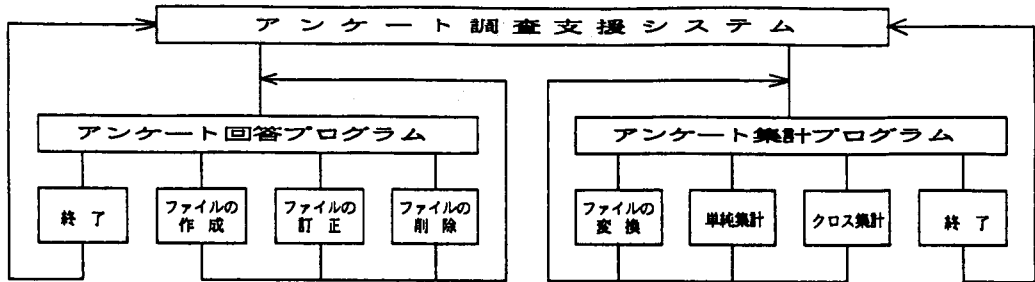


図1 アンケート調査支援システムの概要

このプログラムを利用すれば、質問に答えながら集計のための個人のデータファイルが作成されることになる。

アンケートの質問データは、汎用性を考えすべてデータ文で与えている。質問項目数の限定はないが、選択枝は1～9までである。アルバイト調査では、質問項目はQ1～Q15で小質問をいれと61項目あり、分岐の質問項目が2つ(Q1とQ7)ある。これらの質問データはワープロで作成した調査用紙用の質問データをFM16βのスクリーンエディタでデータ文の形に再編集したものである。

さらに、本プログラムを利用するうえで必要なデータは、質問データのほかに、質問数、最大回答者数、質問

項目名、質問のデータ文数、質問に対する回答数および質問に対する選択枝数である。表1に、これらの必要なデータのラベル名と変数名を示す。ここで、DATA文のラベル名、変数、配列名は、BASIC言語で書かれたプログラム内で使用しているものである(付録参照)。また、質問データのラベル名は、1画面にでてくる質問に対応している。アルバイト調査では、大きく分けて9画面構成で、さらに、そのうち2画面が各々3画面よりなり、合計13画面構成になっている。したがって、表1の必要なデータさえ入れ替えれば、アルバイト調査以外のアンケート調査に、本プログラムを利用することができる。

表1 必要なデータ

DATA文のラベル	変数名	内容
*DATA00	NQ NA MQDN MQAN	質問数 最大回答者数 質問データ文数の最大値 質問回答者数の最大値
*DATA01	QQ\$()	質問項目名
*DATA02	QDN()	質問のデータ文数
*DATA03	QAN()	質問に対する回答数
*DATA04	QQN()	質問に対する選択枝数
*DATA1～ *DATA9	Q\$()	質問データ

図2は、アンケート回答プログラムのメニュー画面である。図2のメニュー画面で1のアンケート回答および

アンケート回答およびデータファイルの作成

データファイル用フロッピーをBドライブに入れて下さい

回答者のクラスを入力してください

(1. MA 2. MB 3. E 4. A 5. C)

回答者の番号を2桁で入力してください

(番号は 01から50 です)

図3 回答者のクラスおよび番号の入力画面

アンケート回答プログラム

1から4を選択してください

1. アンケート回答およびデータファイルの作成
2. データファイルの訂正
3. データファイルの削除
4. 終了

図2 回答プログラムのメニュー画面

作成データファイルはE5.DATです

注意

入力はずべて数字のキーです
回答しない時はリターンキーを押してください
間違った時は、あとで訂正できますので、
設問の番号を記憶しておいてください!
それでは、質問を始めてよろしいですか?
(はい---1 いいえ---2)

図4 注意画面

ファイル作成を選択し、図3で回答者のクラスと番号を入力すると、図4のような注意画面が表示される。回答者のクラスと番号で、後に個人のデータファイルが作成されるので、すでに作成済のデータファイルがあれば、質問に答える前のこの段階でチェックしている。

次に質問内容が一つひとつ連続的に表示されるので、回答者は適切な回答番号を入力すれば良い。質問の回答はすべてテンキーで行ない、テンキー以外のキーや選択枝番号の範囲外の番号は受けつけない。なお、回答しないときはリターンキーを入力すれば、その項目は飛ばされる。図5の質問表示と回答入力画面において、質問は水色で表示され、Q3は回答が3つまで、Q5は回答が

2つまでの複数回答の例である。したがって、Q3では「回答は1から7です」が黄色で3回表示され、Q5では「回答は1から8です」が黄色で2回表示される。またこの時も、例えばQ3で1回だけ回答しリターンキーを押せば、あとの2つは回答を省略したことになる。

入力がすべて終わると、図6の訂正画面（回答一覧表）が表示される。図6において、左欄から項目番号、質問項目および回答者の回答番号である。例えば、項目番号11の質問項目Q3では、回答は147となっており、回答が1、4および7の3つの複数回答であることを示している。図6の回答番号で、0は無回答を意味しており、回答時にリターンキーを押した場合あるいは飛ばされた

Q3. アルバイトの動機はなんですか？ 下から3つまで選んで下さい。

1. お金が欲しい 2. 友達(仲間)が欲しい 3. 生産的な仕事が見たい
 4. 時間が余る 5. 学校が面白くない 6. 家にいても面白くない
 7. 社会を知りたい

回答は 1 から 7 です
 回答は 1 から 7 です
 回答は 1 から 7 です

Q4. アルバイトをどのようにして見つけましたか？ ひとつ選んで下さい。

1. 新聞・雑誌で 2. 友人・先輩の紹介 3. 家族の紹介 4. 直接頼まれて

回答は 1 から 4 です

Q5. アルバイトで得たお金をどのように使いましたか？ (あるいは使う予定ですか) 下から2つまで選んで下さい。

1. 生活費・学業費 2. 機器購入費 (オーディオ、パソコン、ビデオ、バイク等)
 3. 遊興費 4. 衣服費 5. 旅行 6. クラブ活動費 7. 車の免許取得費
 8. その他

回答は 1 から 8 です
 回答は 1 から 8 です

図5 質問表示および回答入力画面

```

##### 作成データ ( E10.DAT ) は下記の通りです #####
1 .Q1 --1                    2 .Q2-1-a--2                3 .Q2-1-b--1
4 .Q2-1-c--2                5 .Q2-2-a--6                6 .Q2-2-b--1
7 .Q2-2-c--1                8 .Q2-3-a--1                9 .Q2-3-b--1
10 .Q2-3-c--2                11 .Q3 --147                12 .Q4 --1
13 .Q5 --12                    14 .Q6-1 --1                15 .Q6-2 --1
16 .Q6-3 --1                    17 .Q6-4 --1                18 .Q6-5 --1
19 .Q6-6 --2                    20 .Q6-7 --1                21 .Q6-8 --2
22 .Q6-9 --2                    23 .Q6-10 --2                24 .Q6-11 --2
25 .Q6-12 --2                    26 .Q6-13 --2                27 .Q7 --2
28 .Q8-1-a--0                    29 .Q8-1-b--0                30 .Q8-1-c--0
31 .Q8-1-d--0                    32 .Q8-2-a--0                33 .Q8-2-b--0
34 .Q8-2-c--0                    35 .Q8-1-d--0                36 .Q8-3-a--0
37 .Q8-3-b--0                    38 .Q8-3-c--0                39 .Q8-1-d--0
40 .Q9 --000                    41 .Q10 --0                    42 .Q11 --00
43 .Q12-1 --0                    44 .Q12-2 --0                45 .Q12-3 --0
46 .Q12-4 --0                    47 .Q12-5 --0                48 .Q12-6 --0
49 .Q12-7 --0                    50 .Q12-8 --0                51 .Q12-9 --0
52 .Q12-10--0                    53 .Q12-11--0                54 .Q12-12--0
55 .Q12-13--0                    56 .Q12-14--0                57 .Q12-15--0
58 .Q12-16--0                    59 .Q13 --2                    60 .Q14 --2
61 .Q15 --3
    
```

データを訂正しますか？ (はい---1 いいえ---2)
 項目番号を2桁で入力してください 01 から 61 です

図6 訂正画面 (回答一覧表)

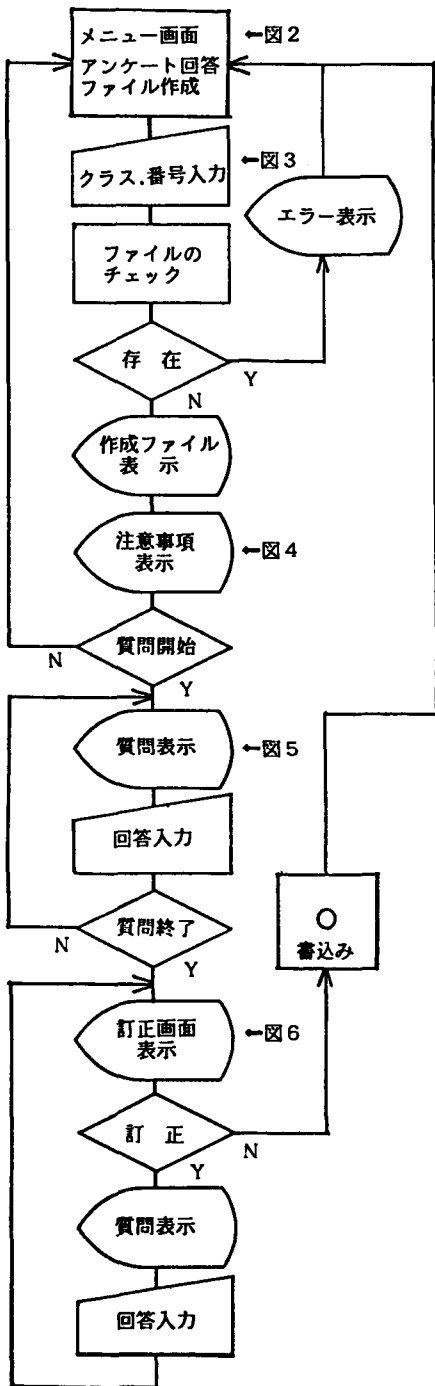


図7 アンケート回答およびファイル作成のフローチャート

質問項目である。もし訂正があれば、「データを訂正しますか？（はい—1— いいえ—2—）」で1を入力し、さらに訂正したい項目番号を入力すると、再度その質問が表示され訂正できる。すべての回答を終ると、図2のメニュー画面に戻る。このとき、初めて個人のデータファイルが作成される。

以上のアンケート回答およびファイル作成のフローチャートを示すと図7となる。

ファイル作成後の訂正はメニュー画面で2を選択すると、フロッピーディスクからデータファイルを読み込んだ後、訂正画面（図6）が再度表示される。ここで、訂正の方法は、アンケート回答およびファイル作成の時と同じ操作をすれば良い。訂正がすべて終了すればデータファイルを更新し、メニュー画面に戻る。

また、すでに作成したデータファイルの削除はメニュー画面で3を選択する。

2.2 アンケート集計プログラム

アンケート集計プログラムは、回答プログラムで作成した個人のデータファイルからクラス別のデータファイルを作成し、単純集計、クロス集計を行なうものである。集計後は一覧表をCRTに表示した後、プリンターに出力する。

集計のクラスは、本校の1クラス50名まで5クラスを想定しており、単純集計、クロス集計ともクラス別と全体の集計を指定できる。クロス集計では9項目までの設定が可能である。さらにクラス別クロス集計では、データを配列に入れているので、設定項目を変更して検討する場合は、ファイルのアクセスがないので早く処理を行なうことができる。

図8はアンケート集計プログラムのメニュー画面である。まず最初に、メニュー画面で1の集計用データファイル作成・更新を選択すると、図9のような表示がでるので、作成を指定すると、アンケート回答プログラムで

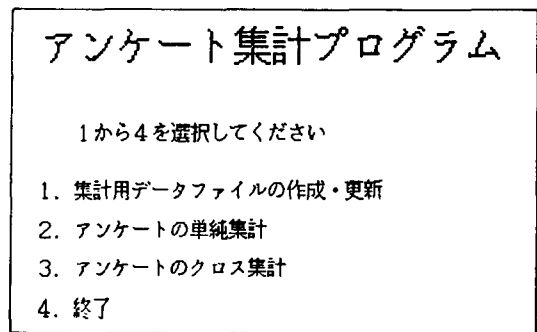


図8 アンケート集計プログラムのメニュー画面

集計用データファイルの作成・更新

個人のデータファイルをBドライブに入れて下さい
 クラスのデータファイルをAドライブに作成します

作成ですか? 更新ですか? 作成 --- 1 更新 --- 2

作成・変更のクラスを入力してください
 (1. MA 2. MB 3. E 4. A 5. C
 6. 全クラス)

図9 集計用データファイルの作成・更新画面

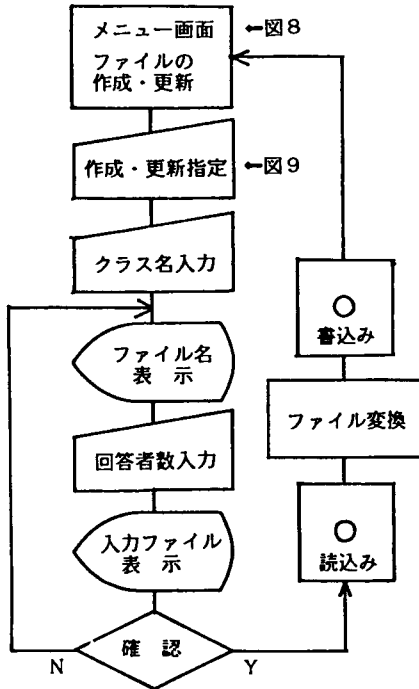


図10 集計用データファイルの作成・更新のフローチャート

作成された個人用データファイル(シーケンシャルファイル)からクラス別のデータファイル(ランダムファイル)が作成される。以後、このクラス別のデータファイルからデータを読み込み、単純集計とクロス集計が行なわれる。以上の集計用データファイル作成・更新のフローチャートを示すと図10となる。

図8のメニュー画面で2の単純集計を選択すると、集計のクラスを入力する画面が表示されるので、クラス名か全体を指定すると、クラス別集計あるいは全体の集計が行なわれる。例えば、全体を指定すると、クラス別の集計が行なわれた後、全体の集計が行なわれ、図11のような全体の集計結果がCRTに表示される。

図11において、左欄から、質問項目、質問項目に対する回答者数および選択枝番号である。図11では集計の一部しか示されていないが、集計結果はすべて表示されるので、質問項目が多い場合には画面内に入らない。そのため、スクロールするのをESCキーで止めなければならない。また、図11の結果を表示する前に、上述のような注意が画面に表示される。

さらに、質問項目に対する回答者数が求められているので、回答者数で割った割合も表示することができる。

図11の集計結果の最後に表示される選択枝番号で、1を選択すればCRTに再表示でき、2を選択すればプリンターに出力することができる。さらに、3を選択すれば図8のメニュー画面に戻る。

メニュー画面で3のクロス集計を選択すれば、図12のような質問項目の設定画面が表示される。図12において左欄から項目番号、質問項目および選択枝番号の範囲である。そこで、クロス集計したい項目番号を指定し、すでに表示されている選択枝番号の範囲内の数字を入力すると、その選択枝番号が赤で表示される。次に、さらにクロスする項目がないかどうかの確認が行なわれ、その

質問項目	クラス (MA, MB, E, A, C)			集計結果					集計人数	206
	回答者数	1	2	3	4	5	6	7		
Q1	206	155	51							
Q2-1-a	87	8	12	14	16	25	12			
Q2-1-b	85	55	26	4						
Q2-1-c	85	17	23	18	6	9	0	12		
Q2-2-a	114	7	6	21	26	18	36			
Q2-2-b	108	80	26	2						
Q2-2-c	112	22	23	25	10	10	4	18		
Q2-3-a	108	18	47	29	6	4	4			
Q2-3-b	99	59	33	7						
Q2-3-c	106	11	34	7	29	14	3	8		
Q3	153	149	19	5	75	12	35	62		
Q4	146	56	50	30	10					
Q5	148	23	72	40	50	30	6	39	18	

CRTに再表示---1 プリンタ出力---2 リターン---3

図11 全体の集計結果 (表示は一部)

```

##### 設問項目および選択枝番号 (9項目まで設定できます) #####
1 .Q1 --1<-->2 2 .Q2-1-a--1<-->6 3 .Q2-1-b--1<-->3
4 .Q2-1-c--1<-->7 5 .Q2-2-a--1<-->6 6 .Q2-2-b--1<-->3
7 .Q2-2-c--1<-->7 8 .Q2-3-a--1<-->6 9 .Q2-3-b--1<-->3
10 .Q2-3-c--1<-->7 11 .Q3 --1<-->7 12 .Q4 --1<-->4
13 .Q5 --1<-->8 14 .Q6-1 --1<-->3 15 .Q6-2 --1<-->3
16 .Q6-3 --1<-->3 17 .Q6-4 --1<-->3 18 .Q6-5 --1<-->3
19 .Q6-6 --1<-->3 20 .Q6-7 --1<-->3 21 .Q6-8 --1<-->3
22 .Q6-9 --1<-->3 23 .Q6-10 --1<-->3 24 .Q6-11 --1<-->3
25 .Q6-12 --1<-->3 26 .Q6-13 --1<-->3 27 .Q7 --1<-->2
28 .Q8-1-a--1<-->7 29 .Q8-1-b--1<-->3 30 .Q8-1-c--1<-->7
31 .Q8-1-d--1<-->2 32 .Q8-2-a--1<-->7 33 .Q8-2-b--1<-->3
34 .Q8-2-c--1<-->7 35 .Q8-2-d--1<-->2 36 .Q8-3-a--1<-->7
37 .Q8-3-b--1<-->3 38 .Q8-3-c--1<-->7 39 .Q8-3-d--1<-->2
40 .Q9 --1<-->7 41 .Q10 --1<-->4 42 .Q11 --1<-->8
43 .Q12-1 --1<-->3 44 .Q12-2 --1<-->3 45 .Q12-3 --1<-->3
46 .Q12-4 --1<-->3 47 .Q12-5 --1<-->3 48 .Q12-6 --1<-->3
49 .Q12-7 --1<-->3 50 .Q12-8 --1<-->3 51 .Q12-9 --1<-->3
52 .Q12-10--1<-->3 53 .Q12-11--1<-->3 54 .Q12-12--1<-->3
55 .Q12-13--1<-->3 56 .Q12-14--1<-->3 57 .Q12-15--1<-->3
58 .Q12-16--1<-->3 59 .Q13 --1<-->6 60 .Q14 --1<-->4
61 .Q15 --1<-->5
どの項目について集計しますか? 項目番号を2桁で入力してください
01 から 61 です

```

図12 クロス集計の項目設定画面

後クロス集計が行なわれる。

例えば、項目番号1の質問項目Q1を指定し、さらに選択枝番号1を指定すれば、長期休暇中にアルバイトをした学生の回答(Q1で、はいと答えた者)を集計できる。さらに、それに付け加えて、項目番号27の質問項目Q7、選択枝番号1を指定し、長期休暇中以外にアルバイトをした学生の回答(Q7で、はいと答えた者)を考慮すれば、すなわち両方ともアルバイトをした学生の回答を集計することができる。

このようにクロス集計したい項目は、9項目まで設定を続行できる。すべての設定を終了すれば、クロス集計を行ない、図11の単純集計と同じような結果がCRTに表示される。CRTに表示後、最後に表示される選択枝番号で、1でCRTに再表示、2でプリンターに出力、3で図8のメニュー画面に戻るのは、単純集計の場合と同じである。以上のクロス集計のフローチャートを図13に示す。

3. アンケート調査支援システムの特徴

アンケート調査支援システムは、回答プログラムと集計プログラムからなっており、この2つのプログラムを結合できることが本システムの最大の特徴である。

回答プログラムは、簡単なドリル&プラクティス型のCAIといえよう。この型のCAIに比べて、難しい点は、回答に複数回答を想定している点とアンケート調査

項目が変わってもプログラムを利用できるように画面構成を考えている点である。一方、コースウェア(アンケートの場合は質問)の流れは、CAIに比べれば簡単であり、アルバイト調査の場合、分岐の質問も2つだけである。

集計プログラムでは、単純集計のみならず9項目までのクロス集計ができ、回答内容を深く検討できることや、さらに回答プログラムと組み合わせれば、誰でも簡単に集計できる点が特徴である。

一方、集計については、社会調査用のプログラムが市販されていたり、また、検索については、データベースのソフトを利用すれば簡単にこなせるであろう。しかし市販のプログラムの最大の欠点は、プログラムやデータファイルの構造などが明確でない場合が多く、融通性や拡張性に欠ける点である。

したがって、本システムを利用すれば、簡単に回答・集計ができるだけでなく、回答はすべてフロッピーディスクにデータベースとして保存されているので、他の教育用のデータベースと組み合わせて利用することも可能である。

以上、まとめると本システムの長所は、

- 1) 使用するキーは、テンキーとリターンキーだけであるので、誰でも回答できる。
- 2) 集計用のデータを入力する必要がない。
- 3) 回答結果は、他の教育用データベースと組み合わせ利用できる。

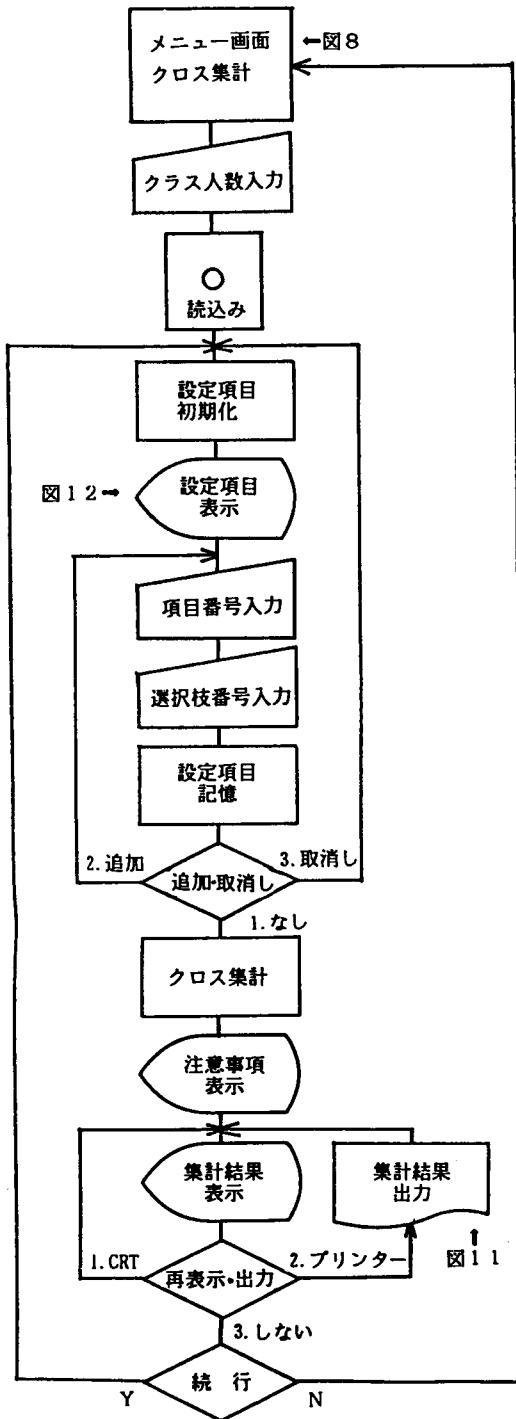


図 13 クロス集計のフローチャート

- 4) 簡単に素早く、集計や検索ができる。
 - 5) 単純集計だけでなく、9項目までのクロス集計ができる。
- などである。

しかし、アンケートの回答そのものにパソコンを利用することの問題点は、

- 1) 調査用紙のように、もとに簡単に戻ることができないので、回答を見直しにくい。
 - 2) 同じような質問画面が続くと、前の画面と区別しにくくなり、回答しにくい。
 - 3) 複数回答の回答数が、初めから設定されているので回答しにくい場合もある。
 - 4) 自由記述がしにくい。
- などが考えられる。

1) については、訂正のチェックを増やせば、解決できるが、そのぶん、回答入力が面倒になる。2) については画面を区分したり、質問のキーワードを表示したり画面構成を工夫することにより解決できる。3) については、回答数の指定をなくすことも可能である。しかし結果の分析のことを考えると、指定しておいた方がやりやすい。4) については、今回は入れていないが、低学年の学生から情報処理教育が行なわれており、パソコンの漢字入力もしやすいので、自由記述の質問を回答させても面白いと思う。

また、パソコンを利用する場合には、質問や選択枝を必ずしも調査用紙用と同じ形態を取る必要はない。例えば、「はい、いいえ、どちらでもない」のような集計がしやすい3段階の選択枝を考えた質問もあったが、5段階ぐらいの選択枝にしてもよい。さらに、図やグラフを入れたり、すでに回答者が答えた内容を引用して質問を作成することも可能である。このように、質問・回答とも、調査用紙用のものとは違ったものを考えることにより、よりよいアンケート調査のための支援システムの開発が可能となる。

4. む す び

学生対象に実施したアルバイト調査のプログラム例をもとに、アンケート回答および集計プログラムについて述べた。3. で述べたように集計が簡単に行なえ、回答分析ができるなどの長所があった。

一方、問題点も考えられるが、前回(昭和62年)のアルバイト調査³⁾では、1クラスのみ試験的にパソコンを利用し、他の4クラスは従来の調査用紙でアンケートを実施した。なお、本システムを利用する際には、回答方法や質問表示に慣れさせるため、一度、予備練習をした

後、本調査を実施した。そして、両方の学生の反応をみて、さらに、調査用紙で行なったクラスとパソコンで行なったクラスの両方を集計した。その結果、両者の回答には顕著な差はみられなかった。

そこで、今回（昭和63年）の調査では、全クラスに対してパソコンを利用してアンケート調査を行なったものであり、今後、回答画面や入力方法をより一層工夫する必要があるものの、パソコンを利用したことのメリットは大きいといえよう。

また、このプログラムは質問データ等を変えることにより、様々のアンケート調査に利用できる。したがって今後、他のアンケートなどにも利用し、回答方法や集計方法を工夫し、本システムの充実を図りたい。

一方、このようにパソコンを教科教育以外にも利用していくことは、学生のコンピュータリテラシーの教育にもつながり、さらに、得られたデータは今までよりもきめの細かい学生指導に役立つものと思われる。

参 考 文 献

- 1) 杉野英太郎ほか：高専入学者の選抜に関する研究（その2）、大阪府立工業高等専門学校研究紀要、17、135（1983）
- 2) 杉野英太郎ほか：高専から大学への編入学に関する調査、日本工業教育協会誌、33、（3）52（1985）
- 3) 大前義弘ほか：アルバイトに関する学生の実態と父兄の意識、アンケート調査報告、TA研究会、1987.6
- 4) 大前義弘ほか：アルバイトに関する学生の実態と父兄の意識、大阪府立工業高等専門学校研究紀要、22 投稿中
- 5) 高橋参吉：アンケート調査支援システムによる学生指導への応用、昭和62年度高専情報処理教育研究発表会

付録 アンケート回答プログラムの一部（質問データに関する部分）

```

1170 DEFINIT A-2
1180 UN ERROR GOTO *FCHECK
1190 RESTORE *DAT00:READ NQ,NA:READ MQDN,MQAN
1200 DIM QO$(NQ),Q$(NQ,MQDN),ODN(NQ),OQN(NQ),OAN(NQ),OA$(NQ,MQAN)
1210 RESTORE *DAT01:FOR I=1 TO NQ:READ QO$(I):NEXT I:'設問項目名
1220 RESTORE *DAT02:FOR I=1 TO NQ:READ ODN(I):NEXT I:'設問のデータ文数
1230 RESTORE *DAT03:FOR I=1 TO NQ:READ OAN(I):NEXT I:'設問に対する回答数
1240 RESTORE *DAT04:FOR I=1 TO NQ:READ OQN(I):NEXT I:'設問に対する回答選択枝数
1250 RESTORE *DAT1 :FOR I=1 TO NQ:JJ=ODN(I)
      FOR J=1 TO JJ:READ O$(I,J):NEXT J:'質問データ
1260
1270      NEXT I

3280 '-----設問に関するデータ-----
3290 *DAT00
3300 DATA 61,50
3310 DATA 4,3
3320 *DAT01
3330 DATA "Q1","Q2-1-a","Q2-1-b","Q2-1-c","Q2-2-a","Q2-2-b","Q2-2-c","Q2-3-a","Q2-3-b","Q2-3-c","Q3","Q4","Q5","Q6-1","Q6-2","Q6-3","Q6-4","Q6-5","Q6-6","Q6-7","Q6-8","Q6-9","Q6-10","Q6-11","Q6-12","Q6-13"
3340 DATA "Q7","Q8-1-a","Q8-1-b","Q8-1-c","Q8-1-d","Q8-2-a","Q8-2-b","Q8-2-c","Q8-1-d","Q8-3-a","Q8-3-b","Q8-3-c","Q8-1-d","Q9","Q10","Q11","Q12-1","Q12-2","Q12-3","Q12-4","Q12-5","Q12-6","Q12-7","Q12-8","Q12-9","Q12-10","Q12-11","Q12-12"
3350 DATA "Q12-13","Q12-14","Q12-15","Q12-16","Q13","Q14","Q15"
3360 *DAT02
3370 DATA 1,4,2,2,2,2,2,2,2,2,1,2,2,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1
3380 DATA 1,4,2,2,2,2,2,2,2,2,2,2,2,1,2,2,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1
3390 DATA 2,1,1
3400 *DAT03
3410 DATA 1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,3,1,2,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1
3420 DATA 1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,3,1,2,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1,1
3430 DATA 2,1,1
3440 *DAT04
3450 DATA 2,6,3,7,6,3,7,6,3,7,7,4,8,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3
3460 DATA 2,7,3,7,2,7,3,7,2,7,3,7,2,7,4,8,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3,3
3470 DATA 6,4,5
3480 '-----質問データ-----
3490 *DAT1
3500 DATA"Q 1. 過去1年間の長期休暇中にアルバイトをしたことがありますか？
      ( 1. はい 2. いいえ)"

3950 '-----
3960 *DAT5
3970 DATA"Q 7. 過去1年間の長期休暇中以外（平日、日曜日）にアルバイトをしたことがありますか？
      ( 1. はい 2. いいえ)"

```